

長男の大樹が誕生したのは昭和59年、当時家電メーカーのCMIに「この木なんの木…」というCMソングとともに、幹・葉が繁茂して巨大な傘状を形成しその下に何十人という人達が集えるような空間を生み出している一本の大きな樹木の映像が写し出されていました。そのような樹木が育っている地球では昔、その樹が集会所の役割を果たしていたというようなことを耳にしたことがあります。



時は高度成長時代にも陰りを見せ始めた頃、物質の繁栄とはうらはらに、人間関係の希薄さに何かしらの疑問を感じていたような気がします。我が子は、たくさんの人達が慕って集ってくれる人間であって欲しい、その人達を大きな枝葉で包み込み、安息の空間を作ってあげられる抱擁力のある心の大きな人間であって欲しい。そんな願いから「大樹」と命名しました。

その大樹も中学3年、受験を控え、学業の方はともかくとしても、「性格はとてもいい」と担任からほめられるような、大らかな人間に成長してくれたようです。

写真は11年前、同じ名前の町へ行って記念撮影しようということで大樹町を訪れ、廃線で駅舎がなくなっていたので、バス停の前で撮ったもの。その時の大樹町の雰囲気、十勝平野の雄大さそのままにゆったりとのびやかだったので、「ここが大樹の第二の故郷だよ」と語りかけたことを今も覚えています。(父)

長女が誕生した日はとってもうつくしい夕やけでしたので坂井夕やけ、次に長男が誕生したときは、長女夕やけの兄弟として(太陽がしずむときに夕やけがなる)坂井太陽、二女が誕生したときは、「太陽」がしずむとき美しい「夕やけ」になり、日本、そして釧路に代表する鶴が夕日に美しい姿で飛び舞う坂井夕鶴、次に二男が誕生しました。兄弟上三人は、夕やけ、太陽、夕鶴と美しい空にあり最後の子供にはしっかりと大地に根をおろして生きる物に希望と夢と今日の喜びと明日への力強い勇気を与えてくれる「大樹」だじゅと名づけました。



出生2週間で退院をしそのとき医者に名刺の裏になにやら書いてあり日赤病院に見てもらおうようにといわれ、妻とふたりで役場に行き保険証のため入籍をすませ急いで日赤に行きました。結果は病名ダウン症といわれました。短命で体も脳も不十分な人生であるといわれました。私はこらえましたが妻の涙と声でこらえていた私も涙がとまりませんでした。文字もよむ事がむずかしいといわれました。それならなぜむずかしい大樹にしたのだろうと、すごく後悔をしました。本人が書ける「大」(ダイ)という名でもよかったのにと、いくども声を出して悔みました。それから4ヶ月目から毎日妻がおんぶって機能訓練に6年通い、養護学校小中と卒業後妻と手をとって作業所通勤をして4年になり、今年7月5日で満20歳になり成人となりました。本人も、友達も、だじゅという名前は障害のある子供達にもとてもよびやすい名前です。本人も自分の名前を言うときはとても腹から力強く、だじゅと言うときはとても生きてる実感がわいてきて強い男のように感じ今では家族全員そして本人もほこりをもって、大きな声でだじゅと言って明るい毎日の家庭になっております。我が家の王様は、だじゅです。とっても良かった名前でした。(父母)

夫婦そろって子供好きな我が家は、子供が出来た時、本当に嬉しかったものでした。まだ、性別もはっきりしないうちから、あれこれと名前を考えたものです。よく、親が名前を考えている時に、「これがいい」と、子供がお母さんのお腹を蹴って決めたというエピソードを聞いた事がありますが、我が家の赤ちゃんなら、蹴って教えてくれるかも…と思える程、私のお腹を、そりゃーもうよく蹴ったものです。



その日の夜も、名付けの本を見て名前を考えていた私は、そのままいつの間にか寝てしまいました。夢の中でも一所懸命名前を考えていたのです。そして、次の日の朝目覚めの瞬間でした。

「大樹」……と、今まで頭の中をよぎった事もなかった漢字二文字と、(たいき)という読み方が、夢の中の画面いっぱいに広がって離れませんでした。ちょっと興奮して、同時くらいに目覚めた主人にさっそく報告すると、一発で気に入ってくれ、

「よし、じゃあもし男の子だったら、大樹(たいき)にしよう！」  
と言ってくれました。二人とも心のどこかで男の子と信じていた所もあって、その日からあまり名前の事は考えなくなりました。

そして、平成9年10月29日、無事男の子が産まれました。立ち合い出産だったので、その瞬間主人が「大樹」と呼んでいた事、やっぱり男の子だったという思いも合わさり、感動もひとしおでした。

時々夢のお告げがあるのは、私の祖父のおかげです。おじいちゃん子だった私は、祖父が亡くなって以来、何か迷ったりすると不思議な夢を見る様になりました。夢判断をすると、ちゃんと夢にメッセージが込められていたりするのです。

(きっと、おじいちゃんが、大樹の気持ちを教えてくれたんだね…)そう考えると、夫婦で今でも温かい気持ちになります。(父)

## 埼玉県熊谷市の大樹さん

特別住民番号706

ぼくの名前は、木村大樹です。読みもたいきといいます。

埼玉県熊谷市の小学3年生です。

ぼくの名前は、お父さんがつけてくれました。

名字の木が、大地にしっかり根をはやしえだをひろげた、大きな樹になるように、とつけてくれました。

ぼくは、今年の夏はじめて大樹町に行きました。

役場の前には、大きな樹がたくさんある公園があって、だから大樹町っていうんだなと思いました。

その後、役場に行くと町長さんが出むかえてくれて、あく手をしてくれました。写真もいっしょにとってくれました。

町長さんに会えると思わなかったのに、会うことができるとてもうれしかったです。

今年の夏は時間がなくて、遊べなかったけど、今度は、温泉に泊まったり、川で遊んだりしたいです。



## 北海道名寄市の大樹さん

特別住民番号708

平成6年6月8日朝、我が家に第二子が誕生した。身長56センチメートル、体重4,154グラムと、平均よりかなり大きなビッグベビーだ。「大」の字の付く名前をつけよう、夫婦の間ではすぐに決まった。「大樹」「大貴」「大輝」、二人で考えた結果「大樹」、だいき以外にはないだろうということになった。「名は体を表す」と言葉はあるものの、これまでピッタリあてはまる名前は無いと自負している。



現在5歳になった彼は、身長132.3センチメートル、体重33キログラム、元気いっぱい成長している。大きく、大自然の中にある樹のように、優しく時には厳しく、おおらか

な人間であれと願っている。

大樹町は酪農の町とか、チーズの町という印象がある。同じ名前となったのも何かの縁、一度足を運んでみたい、「今度みんなで、晩成温泉に泊りに行こうか」と大樹と話しているところだ。(父)

## 北海道苫小牧市の大樹さん

特別住民番号709

道内各紙にのりました。

このころ道内に大樹町という町があるのを知り、つけました。小学生のころ大樹町も訪れました。(父)



## 北海道江差町の大樹さん

特別住民番号710

平成2年最初の子の出生時に、男の子なら「広大な大地に根を張り、大空に向かって大きく真っ直ぐ伸びる子になってほしい。」と、願いを込めて「大樹」と命名するつもりでしたが、かわいい長女が生まれました。

次の子の時にと、持ち越したところ、平成6年に、これまたかわいい二女が生まれました。

そして、やっと平成8年1月14日に男の子に恵まれ、無事に？「大樹」と命名することが出来ました。

以来、大樹町の名が、テレビのニュース、新聞の記事等に出るたびに、何か親しみを感じております。

子供達が子供らしく育ち、それぞれの個性を活かし活躍することを、願っております。(父)



## 岩手県盛岡市の大樹さん

特別住民番号711

我が家の長男「大樹」は、私達夫婦にとっては、望まれて望まれて19年ぶりに生まれた子供です。

私達が住んでいる団地には、樹齢300年という大きなけやきの木があります。主人が小さい時は、団地になる前でしたので、その「けやき」の木にロープを張って、よくぶらんこをして遊んだ思い出があるそうです。

そんな「けやき」の木が今では、大地に大きく根づいて、太くたくましい大きな樹木になっています。

風がふいても嵐が来ても大地に根づいて、びくともしません。そんな力強い「けやき」の木のようにしてほしいと願って「大樹」という名前をつけました。毎日、元気にたくましく成長していますが、こんな親の願いは届いているのでしょうか…。

ウルトラマンが大好きな、4歳になろうとしている我が家の「大樹」です。(父)



## 北海道千歳市の大樹さん

特別住民番号714

名字が小松(小さな木)であるから、せめて名前は大きくしてあげようということで大樹(大きな木)と名付けたそうです。



昭和55年4月11日、午後1時55分に私は生まれ、父が大きな樹木のような人間になる様にと命名してくれました。その父とも事情があり、3歳の時別れ、母が苦勞して今まで育ててくれました。

今回新聞を見て、これは父からのプレゼントだと信じ応募しました。母は大樹町に何度か行った事があり、とても良い町だよと話しています。私も高校卒業後、運転免許を取得したら一度は遊びに行ってみたいと思います。

卒業後は、介護福祉の学校へ行き、これからの福祉社会に貢献したいと思っています。

最後に大樹町の発展を願います。

---

